



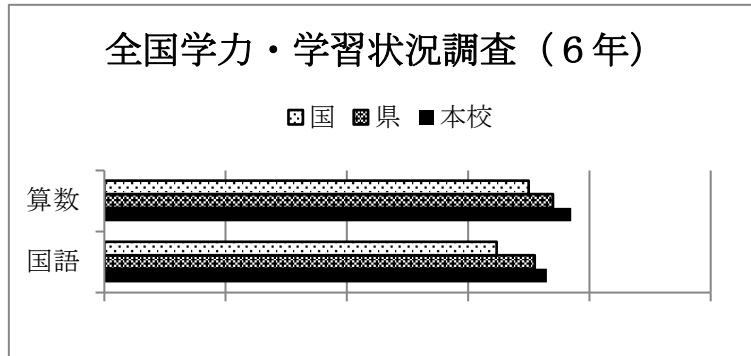
学校だより みなこだ

校訓 強く 正しく 新しく



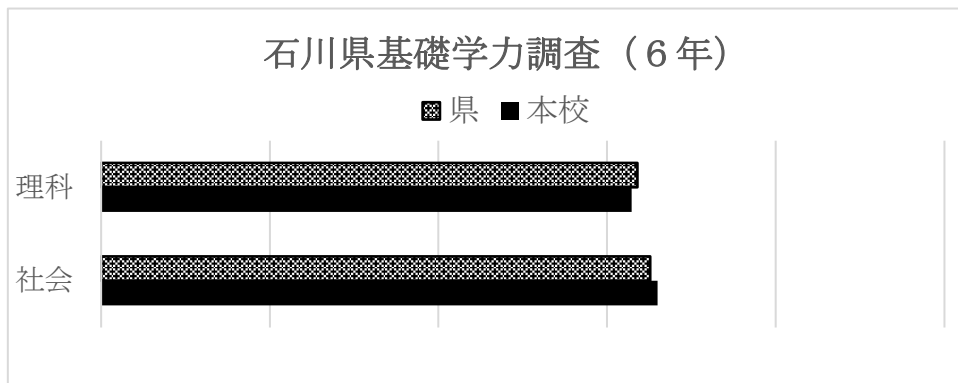
令和4年2月17日
金沢市立南小立野小学校
校長 清水 彰子
TEL261-9414
<http://cms.kanazawa-city.ed.jp>
[/minamikodatsuno-e/](http://minamikodatsuno-e/)

令和3年度 全国学力・学習状況調査（6年）結果



- ・ 6年生の算数では、県平均をやや上回り、全国平均正答率を大きく上回った。
- 「数と計算」「量と測定」領域の知識理解は優れている。
- ▲「図形」、変化と関係の説明やデータの活用に課題が見られた。テープ図や線分図等を自分で書き、数量の関係を捉えられるようにする。演習問題の時間を確保し基礎基本の学力の定着を図っていく。
- ・ 6年生の国語では、県平均をやや上回り、全国平均正答率を大きく上回った。
- 記述式の問題に関しては、概ね県平均を上回った。
- ▲平仮名を漢字に書き直す設問では、県平均をやや下回った。新出漢字を学習する際には、ひたすら繰り返し練習するのではなく、漢字の語源をしっかりと捉えた上で練習していく。

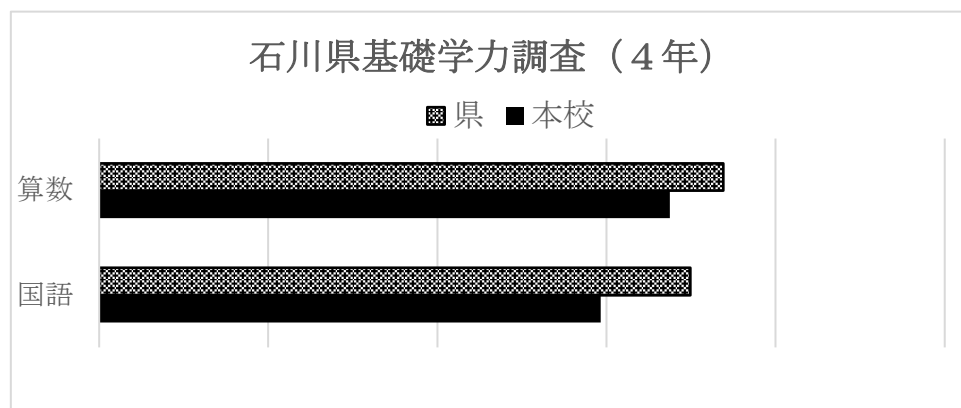
令和3年度 県基礎学力・学習状況調査（6年）結果



- ・ 6年生の理科では、正答率が県平均並みであった。
- 直列つなぎや並列つなぎの電流の設問や、日なたと日陰の気温の変化についての設問では、県平均を大きく上回った。
- ▲「湯気の正体は？」の設問を含め、3・4年生時の学習内容の設問で県平均を下回った。繰り返し書かせたり、言わせたり、時間をおいてまた復習したりすることで、基礎基本を図っていく。

- ・ 6年生の社会では、正答率が県平均並みであった。
- 4年生の浄水場での川の水が飲み水になるまでの作業の順番や、水を大切に使うために日常生活の中でできることについて、正しく書くことができた。
- ▲ 5年生の水産業の学習で、世界と日本の2つの「漁業・養殖業の生産量の変化」のグラフを読み取り、<世界の生産量は増えているのに、日本の生産量は減っているのはなぜか>という学習問題を作る設問で、読み取りが正しくできずに正答できない児童が多かった。
2つのグラフの矛盾点に気づけるよう、授業の中で取り入れていく。

令和3年度 県基礎学力・学習状況調査（4年）結果



- ・ 4年生の算数では、県平均正答率をやや下回った。
- データを分類整理し表に表すことや、データの特徴を読み取り考察する設問で、県の正答率をやや上回った。
- ▲ 知識や思考・判断・表現の設問について課題が見られた。授業の終末で、「わかった・できた」を感じられる演習や振り返り場面を設定することで、基礎基本の学力の定着を図っていく。
- ▲ 「根拠を明らかにして、判断した理由を説明することができる」の設問についても課題が見られた。読み取った情報を図や言葉を用いて整理させ、それを用いて数量の関係を見いだす指導をしていく。
- ・ 4年生の国語では、県平均正答率を大きく下回った。
- 作文では、書いている児童は字数や段落の付け方はきちんとできていた。
- ▲ 基礎基本であるローマ字、漢字の定着ができていない。漢字はしっかり定着するよう、小テストの100点合格や習熟の難しい子には50問テストを分割して実施し、スモールステップで力を付けていくなど、確実に力が付くよう指導していく。ローマ字や主語・述語・修飾語についても、該当单元だけでなく、日常的に意識させ指導していく。
- ▲ 「文章の一部を引用して、分かったことを説明することができる。」の設問に課題が見られた。分かったことをまとめた後、必要な語や文が抜けている文と抜けていない文と比べ、文章の意味が異なることに気づかせる指導をしていく。